# 2013年3月期第2四半期（4月1日～9月30日）業績に関する説明資料

―― 決算実績・通期予想 ――

株式会社コロワイド（証券コード 7616）

2012年11月

# 目 次


| | |
|---|---|
| Ⅰ．グループ体制、地域展開の状況、業態別の主要ブランド | P. 3～P. 4 |
| Ⅱ．外食産業の事業環境 | P. 5 |
| Ⅲ．2013年3月期第2四半期累計期間のトピックス | P. 6～P.9 |
| Ⅳ．当第2四半期累計期間の概要 | P.10～P.13 |
| Ⅴ．下期の計画と今後の戦略 | P.14 |


注1）本説明資料の数値は、すべて連結の数値を使用しております。

注2）本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

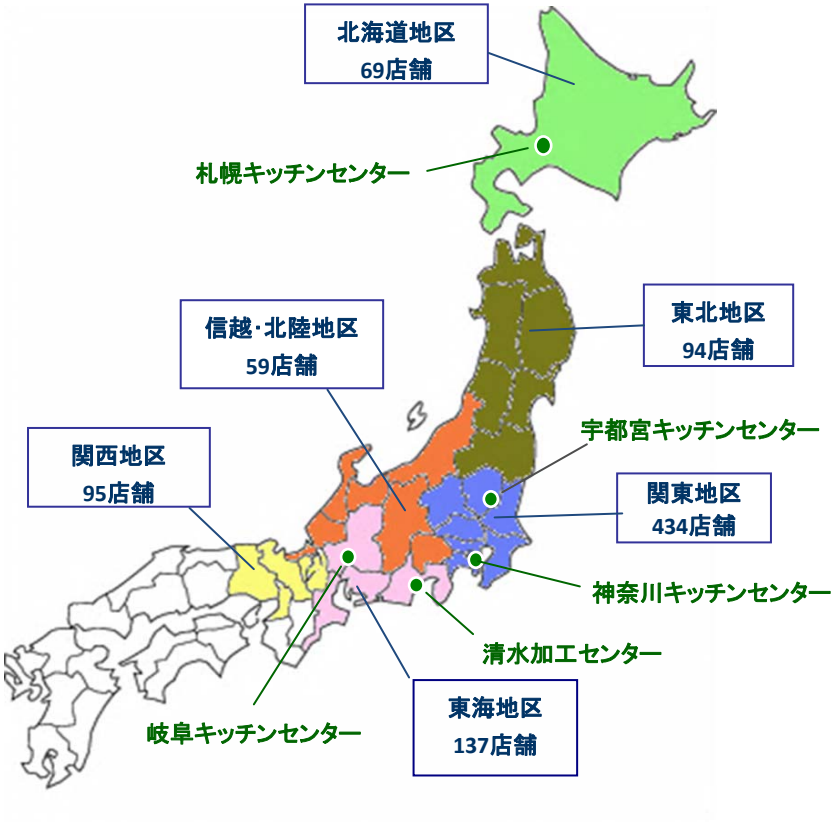
# Ⅰ．グループ体制、地域展開、業態別の主要ブランド

## グループ体制と主要各社の事業内容

**株式会社 コロワイド (holdings)**
東証1部 証券コード 7616

- **株式会社 コロワイド東日本**
  飲食店チェーンの経営
  - **ワールドピーコム株式会社**
    外食事業向けセルフ・オーダー・トータルシステムの開発・販売、無線通信技術の開発・運用
  - **株式会社 ダブリューピィージャパン**
    ウルフギャング・パック・カフェ、エクスプレスの経営
- **株式会社 アトム**（子会社2社を含む）
  飲食店チェーンの経営
  東証・名証2部　証券コード 7412
  - **株式会社 シルスマリア**
    生菓子、焼き菓子、チョコレート（生チョコ他）の製造・販売
- **株式会社 コロワイドMD**
  各種食料品の製造・加工・販売、マーチャンダイジング機能
  - **株式会社 コロワイドアジア**
    海外（アジア）での製造および店舗展開における投資会社
- **株式会社 レックス・ホールディングス**（10/1より連結）
  株式会社レインズインターナショナル及び株式会社コスト・イズの持株会社
  - **株式会社 レインズインターナショナル**（10/1より連結）
    外食ブランドの直営及びFCチェーンの展開
    - **東京牛角股份有限公司**（10/1より連結）
      台湾における飲食店チェーンの経営
    - **REINS INTERNATIONAL (SINGAPORE) PTE.LTD.**（10/1より連結）
      東南アジアにおける飲食店チェーンの経営
  - **株式会社 コスト・イズ**（10/1より連結）
    各種食材・加工品販売、物流、コンサルティング
- **株式会社 バンノウ水産**
  マグロ類並びに水産物の卸売、加工販売
- **PHAN NHA HANG NHAT VIET**（非連結）
  ベトナムにおける飲食店の経営
- **株式会社 ココット**（非連結）
  事務センター

## 地域展開の状況（2012年9月末現在の国内直営店店舗数）




（注）海外：香港 3店舗
ベトナム 1店舗（非連結）

**国内合計888店舗**

## 業態別の主要ブランド

### 飲食事業

| 業態 | 主要ブランド |
|---|---|
| 居酒屋 | 甘太郎、いろはにほへと、NIJYU－MARU、うまいもん酒場えこひいき、北海道　等 |
| 洋食 | ステーキ宮、ラ・パウザ、ウルフギャング・パック・カフェ　等 |
| すし | にぎりの徳兵衛、海鮮アトム　等 |
| 焼肉 | がんこ炎、カルビ大将　等 |
| 和食 | 濱町、濱ふうふう　等 |

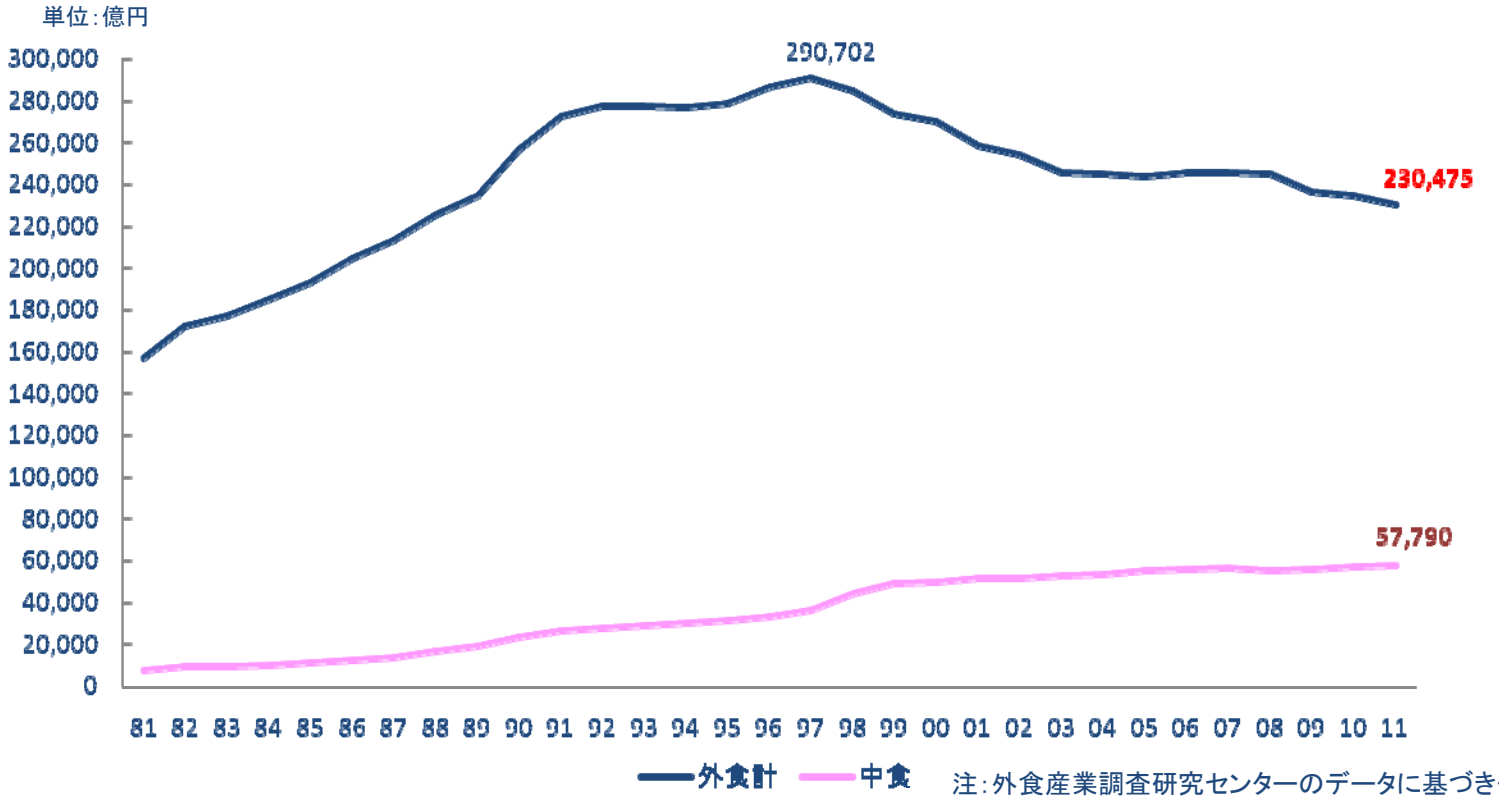
## Ⅱ．外食産業の事業環境

①外食産業の国内市場規模は1997年をピークに漸減傾向。

②中食市場はこのところ成長鈍化してきたとはいえ、底堅さを保っている。

③外食産業は今後、業界再編や海外展開が加速するとみられる。

外食・中食の国内市場規模推移




注：外食産業調査研究センターのデータに基づき作成

## Ⅲ．2013年３月期第２四半期累計期間のトピックス

⑴ 神奈川工場（横須賀市）の2階にLED光源使用による野菜の水耕栽培施設（野菜工場）を新設・稼働。

⑵ ベトナムのハノイに「NIJYU-MARU」を出店。

⑶ 焼肉店「牛角」等を運営するレックス・ホールディングスを10月1日付で連結子会社化。

## トピックス（1） 神奈川工場の水耕栽培施設（野菜工場）

- 敷地面積：約346.82㎡（104.8坪）。
- 完全閉鎖型のクリーンルーム仕様の空間にし、光源としては電気消費量を大幅に削減できるLEDを採用。
- 温度、湿度、CO2濃度などを制御した環境で、病原菌や害虫の侵入がなく、無農薬による野菜を生産。
- 主な生産品：レタス、バジル、ルッコラ、水菜等。うちバジルは加工品（ジェノベーゼソース）を含め、当社が使用する全量 を供給。
- 栽培ユニット：５段式 ４８台（うち８台は育苗用）。
- 月間生産能力： グリーンリーフ約6万株。
- 天候や気温に左右されず、安心安全な質の良い野菜を安定した価格で通年供給できる。
- LED（赤、青、緑の３色）の照射を制御することで生育のスピードを変え、味や栄養価を高めた機能性野菜の栽培が可能。
- 食材加工工場である神奈川工場内に併設させたため、新鮮な野菜をすぐに加工でき、しかも物流費を低減。





（野菜工場）

## トピックス（2） ベトナムのハノイに「NIJYU-MARU」35 QUANG TRUNG店を出店

- 非連結子会社ファン・ナー・ハン・ナット・ヴィエット（PHAN NHA HANG NHAT VIET）を通じて9月19日にオープン。店舗面積約 600㎡、席数は220席。
- 海外店舗としては5店目で、日本食を主体とした居酒屋業態。
- 焼き鳥や鍋料理をはじめとして、天ぷらと日本そばのセットや各種スイーツなども提供。
- 値ごろ感を打ち出して、現地の中間所得層からも支持される業態にする。
- 原則として現地の食材を使うが、ベトナム国内に安心安全な食文化を構築することを目指している。
- 今後はハノイ以外の都市にも出店し、JVで200店舗まで増やす計画。



（店内イメージ）

## トピックス（3） 焼肉店「牛角」等を運営するレックス・ホールディングスの連結子会社化

グループで焼肉店「牛角」の他、しゃぶしゃぶ店「温野菜」、居酒屋「土間土間」及び「かまどか」等を、
直営及びFCにより約1,200店舗展開しているレックス・ホールディングスを連結子会社化。

【取得株式数、取得日、今後の見通し】

① レックス・ホールディングスの発行済株式数の66.6%を取得。

② 株式取得日： 10月 1日。

③ レックス・ホールディングスは有利子負債の圧縮と資本増強によって、財務状況が改善される見込み。

# Ⅳ. 当第2四半期累計期間の概要

（単位：百万円）

| | 2012/3月期 2Q累計 | | 2013/3月期 2Q累計 | | 増減率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 48,907 | 売上比 | 50,020 | 売上比 | 2.3% |
| 売上原価 | 15,193 | 31.1% | 15,450 | 30.9% | 1.7% |
| 売上総利益 | 33,714 | 68.9% | 34,569 | 69.1% | 2.5% |
| 販管費 | 32,432 | 66.3% | 33,991 | 68.0% | 4.8% |
| 営業利益 | 1,281 | 2.6% | 577 | 1.2% | ▲55.0% |
| 営業外収益 | 708 | 1.4% | 497 | 1.0% | ▲29.8% |
| 営業外費用 | 861 | 1.8% | 905 | 1.8% | 5.1% |
| 経常利益 | 1,128 | 2.3% | 168 | 0.3% | ▲85.1% |
| 特別利益 | 23 | 0.0% | 136 | 0.3% | 491.3% |
| 特別損失 | 616 | 1.3% | 462 | 0.9% | ▲25.0% |
| 税引前当期利益 | 535 | 1.1% | ▲ 157 | - | - |
| 当期純利益 | ▲ 49 | - | ▲ 886 | - | - |

**増収ながら販管費率の上昇等で減益・最終赤字拡大**

売上高：　50,020百万円（前年同期比　2.3%増）

営業利益：　577百万円（前年同期比55.0%減）

経常利益：　168百万円（前年同期比85.0%減）

当期純損益：▲886百万円（赤字拡大）

新規出店13店舗、閉店17店舗⇒純減4店舗

国内直営既存店の売上高前年同期比 98.7%

## 期中における国内外直営店の出退店の状況

| | 前期末 | 新規出店 | 閉店 | 当2Q末 |
|---|---|---|---|---|
| コロワイド東日本 | 518店舗 | 5店舗 | 11店舗 | 512店舗 |
| WPジャパン | 9店舗 | 0 | 0 | 9店舗 |
| アトム | 365店舗 | 8店舗 | 6店舗 | 367店舗 |
| コロワイドアジア | 3店舗 | 0 | 0 | 3店舗 |
| 合計 | 895店舗 | 13店舗 | 17店舗 | 891店舗 |

- グループ全体で28店舗の新規出店を計画していたが、M&A案件の存在もあり、13店舗の新規出店に留まる。
- 一方、閉鎖店舗は12店舗の計画に対して、17店舗の閉鎖を実施した。

## 既存店（全業態集計）売上等の前年同月比の推移

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 2Q累計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 100.5% | 97.1% | 100.7% | 93.7% | 100.7% | 99.9% | 98..7% |
| 客数 | 98.9% | 95.0% | 98.3% | 94.2% | 100.5% | 99.8% | 97.8% |
| 客単価 | 101.7% | 102.2% | 102.5% | 99.6% | 100.1% | 100.1% | 101.0% |

## 居酒屋・レストラン業態の比較

| | | 居酒屋 | レストラン | 全業態 |
|---|---|---|---|---|
| 全社 | 売上構成比 | 59.2% | 40.8% | 100.0% |
| | 客数構成比 | 43.2% | 56.8% | 100.0% |
| 既存店 | 売上高 | 96.9% | 101.4% | 98.7% |
| | 客数 | 96.2% | 99.0% | 97.8% |
| | 客単価 | 100.7% | 102.5% | 101.0% |

注：既存店のデータは前期比

- 国内の既存店（全業態集計）売上高は外食チェーンの中では比較的堅調に推移。
- しかしながら既存店売上高を業態別にみると、居酒屋業態は苦戦。

## 売上高の動向

売上高は下記を主要因として前年同期比 2.3%の増加。

■店舗の改装・改修を積極的に行った効果が出て、特にレストラン業態の既存店の売上高が堅調に推移した。

■居酒屋業態では昼宴会を中心に、ノンアルコール宴会、女子会、ミッドナイト宴会などの各種宴会が支持された。
■店舗数が前年同期比で7店舗増加

## 営業利益の減益要因

営業利益は下記を主要因として前年同期比55.0%減少。

■食材調達と商品開発との連携強化、食材の内製化率の向上、食材アイテム数の削減、などによって粗利益率が 0.2%上昇した。

■しかしながら、 居酒屋業態における既存店売上高の減少や販促費の負担増、水道光熱費の値上げなどの影響で販管費率が 1.7%上昇した。

## 当期純損益の赤字拡大の要因

当期純損益は下記を主要因として赤字が拡大。

■経常利益が前年同期と比べて85.0%もの大幅減少となった。

■固定資産除却損等の特別損失462百万円の計上。

■繰延税金資産の取崩し282百万円の計上。

## Ⅴ．下期の計画と今後の戦略

### 2013年3月期通期の業績予想

（単位：百万円）

| | 2012年3月期実績 | | 2012年3月期実績 | | 増減率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 101,879 | 売上比 | 131,598 | 売上比 | 29.2% |
| 営業利益 | 3,203 | 3.1% | 5,187 | 3.9% | 61.9% |
| 経常利益 | 2,533 | 2.5% | 3,712 | 2.8% | 46.5% |
| 当期純利益 | 773 | 0.8% | 1,050 | 0.8% | 35.8% |

注：通期の業績予想は10月30日に期初予想を修正。

■ 景気の先行きには不透明感が強まっており、外食産業の事業環境も一層の厳しさが予想される。

■ しかしながら、ワークスケジュール管理のさらなる徹底、食材の削減・統合、レックス・ホールディングスの連結子会社化による効果などを想定し、上記のように業績予想を修正した。

### 今後の戦略と方向性

①長期ビジョン：外食日本一を目指す

②中期的課題： 業態の集約

③短期の問題： 販売力の向上